

令和2年度 はねかわ保育所
年間事業活動報告書

【保 育 総 括】

基本方針

地域の豊かな自然や人々の温かいまなざしの中で、保育者一人ひとりが『温かく、柔らかく、ゆったりと』を合言葉に子どもたち同士がそのつながりのなかで学びあい、将来にわたり生きる力を育むことができるよう、次のことを大切にします。

- 一人ひとりの子どもの心、思いに丁寧寄り添います。
- 家庭や地域社会と連携し、共に子どもの育ちを支えます。
- 地域の自然や伝統文化を保育に取り入れ、様々な体験を通して豊かな感性と健全な心身の発達を支えます。
- 友だちとの遊びや生活を通じて、自分のことだけでなく友だちや命の大切さを伝えます。

保育目標 育ってほしい子どもの姿

- 明るく元気に遊ぶ健やかな子ども
- 思いやりのある子ども
- 相手の思いに気づき、自分の思いを表現できる子ども
- 生活習慣を身につけ健康に過ごす子ども

令和2年度は前年度に引き続き上記の基本方針・保育目標を念頭に保育を実施し、秋田市へ報告すべき重大な事故もなく1年間を終えることができた。

(1) 全体として

4月在籍児32名でスタートし、途中入退所を経て3月末には在籍児が34名となった。

途中入所は7月に0歳児1名、9月に0歳児1名が母親の就労のため、又1歳児1名が母親の就労が決まらないため2月末で退所となっている。

年間を通じての保育認定については、12月から2月まで短時間認定(入所理由:求職活動のため)2月末には退所となった。(3月は一時預かり保育を利用している。)他園児は標準時間認定であった。

職員の状況は、保育士1名が4月に1年間の育児休業から復帰、11月には1名が育児休業から復帰した。また1名は7月に出産後、育児休業を取得中(令和3年7月から職場復帰予定)である。

臨時保育士1名が体調不良のため6月で退職となった。

常勤職員14名(内保育士12名)、パート職員2名(保育士1名、調理補助1名)でスタートしたが保育士の産休、育休が重なり、また途中退職者もいたことから、保育士定数(各種補助事業、加算対象)を満たさない月もあり、加算請求時に調整した。

(2) 保育実践

基本方針にもあるように、地域の豊かな自然や人々の温かいまなざしの中で、保育者一人一人が「あたたかく、やわらかく、ゆったりと」を合い言葉に、子どもたち同士がそのつながりのなかで学び合い、将来にわたり生きる力を育むということを大切にされた保育を実践してきた。

子どもたちは、はねかわ保育所でコロナ禍ではあつたが、下浜の豊かな自然に親しみ、のびのびと、生活していくことで、心も体も成長することができた。

様々な行事が中止や延期、縮小となったが、その中でも工夫して保育を実施することができた。

安全を確保した上で全クラス天気の良い日は外遊びが中心となった。地区内の散歩では、自然の恵みを四季折々に体感し地域の方とのふれあいもたくさん経験できた。広い園庭での土手山探検、固定遊具での遊び、ままごと、鬼ごっこ等存分に楽しんだ。乳児クラスは外遊びや散歩をたくさん経験し、足取りもしっかりし歩行も安定してきた。幼児クラスも外遊びを存分に楽しむことで、心も体も逞しく育っている。

幼児クラスは4歳児担当の保育士が6月で退職したことで、合同で過ごさざるを得ない状況になったこともあり、例年より多くの時間を過ごすことになった。園児はその中で、年上児から年下児は様々な遊びを真似し、年下児や、面倒をみようとする姿もあった。年下児は憧れを持って過ごす姿もあった。その中で相手のことを思いやる姿もみられた。おゆうぎ会は合同で劇「てぶくる」に挑戦した。台詞を教え合ったりするほほえましい姿も多く見られていた。

乳児クラスは、2歳児は元気いっぱい散歩に出かけ、室内でも存分に遊ぶことができている。保育室に2台目のエアコンがついたことで快適に過ごすことができている。0.1歳児は途中入所があった。その都度話合い、子どもたちが安心して過ごすことができるように努めた。その中で0.1歳児、1.2歳児と一緒に過ごすこともあったが、友だちを真似して遊びを展開しようとする姿がみられた。

各年齢に合わせた生活習慣を身につけ、健康に過ごす子どもを育てるために家庭や保育所での様々な情報を交換しながら日々の生活の健康と安全を守るよう努めることができた。

4.5歳児が「羽川剣ばやし」を体験するものの、様々な行事が中止となったため、発表の場が少なかった。このことが子どもたちのモチベーションにも大きな影響があった。保育所以外（地域等）での活動やふれ合いが、子どもたちの成長にとって大切な要素となっていることをあらためて認識した。

その中でも、小さい子どもたちも太鼓をたたく真似をしたり、かけ声をかけあったり実際に見学することもあり、自分もやってみたいという気持ちも育ってきている。

子どもたちと一緒に畑やプランターで野菜を育てた。野菜の生長を間近に見て育てることで、食べることに意欲を持たせたいという思いだった。実際に実りに喜び、栽培した野菜を丸かじりすることで食べたいという思いが強まる園児もいた。コロナ禍でクッキングは計画した通りできなかった。

1) 行事の取り組みについて

新型コロナウイルス感染症の予防対策として行事を縮小し、中止をした。また、できる範囲で工夫をし、子ども、保護者と一緒に楽しめるようにした。

- ・クリスマスローズ散歩～中止
- ・春の防火パトロール～中止
- ・秋の防火パトロール～下浜消防分団の協力を得てパトロールを実施した。
下浜消防分団の方から消火器の使い方の指導を受けた。
- ・わかばWalk～中止
- ・世代間交流～一度延期したものの、中止とした。 (長浜親睦会)

- ・世代間交流～9月の地区敬老会（羽川地区・長浜地区）は中止。お祝いのメダルのプレゼント作成。（地区敬老会）
- ・羽川百踏会交流会～中止
- ・世代間交流～羽川百踏会会員との餅つき会。中止（羽川百踏会）
- ・世代間交流～祖父母参観デー、中止。2月から胃腸炎の園児がいたこともあり、ひなもち作りは中止。それに代わり、小麦粉粘土あそびをして楽しむ。保育者2名で、ひなもちを作り、子どもたちと一緒にお供えし、給食時に一緒に食べている。（祖父母参観デー）
- ・保護者会環境整備～午前6時から保護者6名、職員3名で園庭や周辺の草刈り、窓掃除、テラスの簀の子の下等、普段なかなかできないところを清掃することができた。また、運動会の前にも園庭の草刈りを実施してもらった。
- ・夏まつり～保護者を呼んでの夏まつりは中止。保育者と園児で楽しんだ。スタンプラリー形式で、お面作り、魚釣り、ボーリング等で楽しんだ。給食で準備した手作り焼きそばを食べて楽しく過ごした。
- ・親子大運動会～保護者のみ参加。子どもたちの頑張る姿を見ていただいた。
- ・おゆうぎ会～乳児クラス、幼児クラスの二部制にして実施した。消毒や換気を実施しながらの開催となった。家族の参加があり、子どもたちの成長した姿をみていただいた。
- ・さつまいもパーティ～畑で収穫したさつまいもを園庭で焼き芋に、また、ストーブでさつまいもご飯を炊いて収穫を味わった。
- ・虫の音コンサート～中止
- ・個人面談週間～5月の一週間を個人面談の週とし、都合の良い時間帯を聞き、クラス担任と保護者で概ね20分間、子どもの様子を話し合う機会を持った。（全園児の保護者が参加）
- ・懇談会～年1回(全クラス)忙しい時間帯（平日17:30から概ね1時間程度）ではあったが多くの保護者の参加があった。
- ・保育参観週間～全クラスを対象に乳児クラスは9:00～10:30、幼児クラスは9:00～11:00の時間帯で実施。給食の提供は実施せず。短時間ではあったが実施することができた。
- ・卒園式／羽川剣ばやし伝達式～卒園児4名。新型コロナウイルスの影響もあり、卒園児、

保護者、3.4歳児保育者、理事長で実施。(家族、祖母、兄1名ずつの参加があった。)来賓については参加を控えてもらった。十分な空間を保つため、ホールをいっぱい使って、椅子等を設置。空気清浄機を用意し、換気も行うようにした。入学先は、日新小2名、浜田小1名、牛島小1名であった。

2) 在籍状況について (別表1を参照)

4月、32名でスタート、3月末には34名となった。年間平均充足率は84.8%であった。

3) 地区別在籍状況について (別表2を参照)

4月は下浜地区の子どもの割合が約50%、その他の地区の割合が50%、3月には下浜地区47%、他地区53%となっている。前年度3月末下浜地区の割合が高かったのだが、本年度は他地区の割合の方が高い。5歳児に関しては下浜地区の園児がいない状況であった。はねかわ保育所から下浜小学校への入所はなかった。その他の地区としては、浜田、新屋、牛島、八橋、檜山となっている。

4) 延長保育利用状況について (別表3を参照)

年間延307人の利用があった。延長保育時間は保育士や、友だちと一緒に絵本を見たり、折り紙をしたりしながら18:20以降は軽食をとってゆっくりと過ごしている。

利用については朝の段階での申し出がほとんどであるが、18時近くに電話で依頼が入ることもあった。連絡がない場合も多々あり、その都度、保護者には分かった段階で連絡して欲しい旨を伝えている。保護が迎えに来るまではしっかりと園児が安心して過ごせるよう対応している。

5) 一時保育利用状況について (別表4を参照)

年間延22人の利用があった。利用理由としては「入所前に保育所を経験させたい」「母親の就労のため」「家庭の都合」などであった。利用の際は、事前に面接を実施して、子どもの健康状態や家庭状況を把握した。利用児は同年齢のクラスで友だちと一緒に安心して過ごせるように対応した。

2月いっぱい退所した園児も一時保育を利用した。(仙台に引っ越すため)

6) 保育所開放事業(きらぴか広場)について (別表5を参照)

新型コロナウイルス感染症対策の為、全て中止とした。

7) 保育事故状況について (別表6を参照)

年間の通院治療は4件であった。他の怪我等は消毒、カットバン、冷えピタ貼付の処置で済んでいる。

- ・フレッシュハウスの壁に顔面をぶつける～3歳男児、園庭で年上児たちと走りながら探検していた。土手山を走って勢い余り、フレッシュハウスの壁に顔面をぶつける。保育者が1人ひとりの様子をしっかりと把握することができず、注意が足りなかった。広い視野で子どもたちの様子をみたり、常に危険を予測して注意して見ていくようにすべきであった。通院し、レントゲン撮影したが、骨折はなし。1週間は様子を見て欲しいとのこと。休み明け(GW)腫れは大部ひけていたが鼻が詰まったような声をしていたとこのことで耳鼻科通院したところ、異常なく完治している。
- ・唇をテーブルの角にぶつける～4歳女児、コップをケースに戻す際に手洗い場から走ってきてテーブルの前で転倒しその際にテーブルの角に唇をぶつけ前歯と歯茎の間から出血をする。本児が外に出ようと靴下を履いている状態で水分補給を促し、その上で担任が目を見失ってしまった。目を離す場合は他の保育者にも協力をしてもらうべきであった。歯のぐらつきがあったため通院したが痛みはないようなので様子を見ていても大丈夫とのこと。食欲もありいつものように過ごすことができた。(翌日も変化は見られていない。)

- ・歯のぐらつき～4歳男児、保育室で遊んでいた本児が「口ぶつけた」と訴える。四つん這いになり遊んでいた際に床にぶつけてしまったとのこと。本児が激しく動くことは理解していたつもりだが、保育者側で油断していたところもあった。保育者が2名いたため、全体把握に努めるべきだった。保育室ではどんな事故がおこるか想定しながら保育をしていく必要があった。歯のぐらつきが気になったため、歯科通院した。固い肉等は避けて様子を見て欲しいとのこと。詰め物をして帰園。給食中も気にし、詰め物が取れてしまっていた。何度か通院するが、詰め物はせずに様子を見るということで治療は終了した。

- ・左眼が腫れる～1歳男児、0歳児、1歳児でままごとをして遊んでいた。ロッカー付近で遊んでいて突然、泣き声が聞こえ見ると左目尻を押さえて少し出血していた。すぐに止血したため、様子を見ることにした。1歳児はまだ前に物があっても距離感を掴めず思うままに行動してしまうこともあることを踏まえて保育にあたる必要があった。子どもたちの行動を予測して環境構成をしっかりと行うようにしていきたい。昼寝後、左眼が腫れていたため、眼科通院したが異常なし。点眼と軟膏でしばらく様子を見る。完治している。

以上4件

- ・誤食疑い～2歳児男児、同じクラスに乳アレルギーと卵アレルギーの園児がいた。給食メニューはラーメンだった。卵アレルギーの園児にラーメンを提供してしまった。食事風景を見に来ていた給食担当者が気づいた。その園児が少量、ラーメンを口に入れてしまったがすぐにはき出させた。その後、男児に異常はみられていない。調理員と保育者側も何アレルギーなのかをしっかりと把握し、双方でダブルチェックをして対応することを確認しあった。

保育事故状況については前年から比べると、乳児クラスは34件の増、幼児クラスは161件となっている。事故の時間帯については、前年同様、乳児クラス、幼児クラス共に10:00～11:00が1番多くなっている。(全職員が揃い活動が本格的になる時間帯)乳児クラス、幼児クラスとも、要因としては遊具・備品等の使用中に発生した衝突や転倒が多くなっている。受傷状況については打撲、擦過傷、切り傷等があげられる。

今年度からヒヤリ・ハット(別紙参照)についても記録している件数4件。保育者が予想できない事故も発生しているため、園内研修内でも全体でその状況について話し合い、自分のこととして捉えていくようにした。子どもたちが安心して、遊びこんでいけるように、保育者は環境構成を整え、またきめ細やかな配慮ができるよう努めたい。

8) 意見・要望等受付状況について(別表7を参照)

個別の文書や口頭による意見や要望の受付は特になかった。1月に保護者アンケートを実施した結果『熊出没に関する不安』『冬場の駐車場の暗さ』『朝の受け入れ時の職員の状況』等の意見、要望が寄せられた。寄せられた意見や要望に対してはアンケート結果として記載し全世帯へ配付している。4月22日苦情解決第三者委員会を開催して、2年度意見・要望等受付状況および保育事故状況について報告した。

9) 与薬依頼状況について(別表8を参照)

年間を通じて保護者より依頼を受けて行っている。継続して使用する薬に関しては、1週間単位とし、週末には持ち帰ってもらうことを定着させることができた。

夏場の虫除けスプレーについては保育所で用意した物を使用した。使用に当たっては保護者からの同意書で確認している。

1 0) 感染症発生・罹患状況について（別表 9 を参照）

年間を通じて感染症に罹患する園児がいた場合は、感染状況を玄関先に掲示して保護者に知らせ、注意を呼びかけた。

2年度は、感染症の罹患が非常に少なく、玄関先での手指消毒や保護者、保育者のマスクの着用をした。3年度も実施している。

新型コロナウイルスの罹患者が秋田市で確認されたことで、保護者にも県外の往来の自粛や県外行った場合は知らせてもらう等した。特段、注意を要する保護者、園児もなく、また罹患もせずに終えることができた。

1 1) 内科健診・歯科健診

6月2日、12月1日、嘱託医三浦医師による内科健診を実施した。全園児2回の健診を受けている。

6月4日、嘱託医西村歯科医師による歯科健診を実施した。全園児が健診を受けた。

健診の結果については、「健診結果のお知らせ」として全家庭へ配付した。内科健診ではとくに問題のある子どもはいなかった。11月の内科健診では4歳児がキッズステップノートに保護者に記載してもらった。保護者の園児に対しての思いも知ることができた。

1 2) 障がい児保育実施状況について

3歳児、4歳児各1名が医療療育センターに定期的に通院している。

保育士が子どもたちにどう関わっていくべきか、保護者とも連絡を密に取りながら保育をすすめている。2人共に成長はしているが、他機関に相談できるところまではいっていない。

1 3) 他機関との連携について

秋田市子ども未来センターからの依頼により、要観察世帯として2世帯3名（2歳児、4歳児の姉弟、4歳児）の園児、家庭の状況について、3ヶ月毎に文書で報告している。12月で1世帯（4歳児）が要観察世帯から外れている。

1 4) 保育の質及び質の向上に向けた取り組み状況について（別表 10 を参照）

2年度は園内研修の実施は5回、アレルギー食の対応について、食事・おやつについて、園庭でのあそびについて、保育者同士で危険な箇所を確認、どのようにしていけば良かったのか意見を出し合った。付箋を使用しての園内研修を実施することで意見が出しやすくなり、活発な会となった。

キャリアアップ研修の受講が多く、年間を通じた継続的な研修会が多かった。コロナ禍であったため、リモートで研修することもあった。レポートも期限内に提出することができた。

外部から講師を招いての研修は中止とした。

1 5) 短時間保育について

2月で退所となった、1歳男児（母親の仕事先が見つからなかったためと3月後半より、仙台に引っ越しが決まっているため）が利用している。合わせて一時預かり保育も利用している。

1 6) 広域入所について

特になし

1 7) 休日（日曜）保育実施について

令和3年4月からの実施に向けて、理事会で規程の改正、実施要綱が承認され、秋田市からも承認となった。保育所パンフレット、ホームページも更新した。又秋田市ホームページにも休日保育実施園として掲載された。

事業開始に当たっては、職員間の協議を重ね又理事長からも事業実施の必要性・意義について説明がなされた。職員は主旨を理解して新規事業に臨んでいる。

【クラス状況】

（こうさぎ組・0歳児）

入所の時期も違い月齢差もある中で、4人全員と信頼関係を築いていくために保育者間で声をかけ合いながら保育者と子どもの1対1時間を作り、安心して保育所での生活を楽しめるよう触れあっていった。

積極的に外に出て外気浴や戸外遊び、散歩をし、その中で自然物に目を向け見たり触れて、季節を感じられるよう声をかけるなど働きかけていった。それぞれの姿が見られ、寄り添っていきながらくり返し機会を作り楽しめるようにした。

クラスだけの活動が少なかったことを反省する。1つ上の年上児と一緒に過ごす機会が多くあったため、あそび方や姿に興味を持ち真似したり、優しく接してくれることを喜び、関わりを楽しむ姿があった。意欲に繋がれるところは働きかけ、高めていけるよう援助していった。

（クラス担任 米山 晶子）

（うさぎ組・1歳児）

1年を通じて保育者との信頼関係をしっかりと築き、一人ひとりが安心して過ごせるようにした。月齢差が見られる場面もあったが、身のまわりの事も保育者に手伝ってもらいながらできることも増えて1年で成長を感じる事ができた。

子どもたちの興味関心を大切にして、その季節ならではの遊びもダイナミックに遊べるように活動に取り入れた。

言葉が増えてきた分、友だちとの関わりも増えてきたが、まだまだトラブルが多く、保育者の仲立ちが必要な場面がほとんどだったので、その時に応じた対応をしながら一人ひとりの思いをしっかりと受け止めていくようにした。人数は少ないが、少ないなりに楽しめるように遊びを考え手厚く保育できたことはよかったと思う。

（クラス担任 佐藤 愛理香）

（こあら組・2歳児）

初めのうちは、「できない」「やって」と言って、保育者にやってもらいたがる姿が多かった。やり方を伝え、自分でやってみようと思えるよう励ましていくようにした。少しずつやり方が分かってきたと共に、身の回りのことを積極的に行うようになっていった。

友だちへの興味がでてきて、関わりが増えてきた反面、トラブルになってしまうことも多かった。自分の思いを言葉で伝えられるよう援助すると共に、相手の気持ちも伝えていくようにした。友だちとの関わりが徐々に深まってきている。

（クラス担任 澤田 綾子）

（とら組・3歳児）

初めての活動が多かった一年で子どもたちは様々な刺激を受けていた。できることもたくさん増え進んでやってみたり、保育者に援助してもらったりしてできた事を喜ぶ姿も多かった。

幼児クラス合同で過ごすことも多く、真似をしてやってみようとしたりしていた。生活の時間が変わり、昼食時間が遅くなり活動する時間も長く活動量も増えたことで体力もついてきている。

その中で、年上児やクラスの友だちに思いが伝えられずトラブルになることも多くあった。保育者が仲立ちしていき思いを伝えられるようにしたり、時には自分たちで解決できるよう見守ったりしていき、子どもたちの関わりが深まるようにしていった。

（クラス担任 佐々木 奏）

（きりん組・4歳児）

クラスの中、または異年齢児の中で様々な行事に積極的な姿が見られ、一つ一つを楽しみながら学んでいく姿が多かった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になってしまう行事も多か

ったが、可能な環境の中で存分に楽しめるように工夫して雰囲気を作る努力をしていくことで、成長につながる経験と成っていった。

身の回りのことや基本的な生活について個人差が大きく、一人ひとりの生活環境や背景に合わせて対応したり、保護者との信頼関係を築き保つことを大切にしていた。幼児クラス合同で過ごす時間が多く、異年齢児の関わりが深まり集団で遊ぶことの楽しさを存分に味わえるように援助していくことで子ども同士の繋がりも深まっていった。

(クラス担任 嵯峨 志穂)

(ぞう組・5歳児)

様々な行事や活動を経験していく中で、年長児として年下児をリードしたり、自分の思いや考えを積極的に友だちに言葉で伝えていけるように促していくことで、子どもたちにも少しずつ意識や自覚が出てきたように感じる。幼児クラス合同で過ごしたり活動する事が多かったためその中で積極的に行動したり、友だちや異年齢児と共に協力し合いながら目的に向かって頑張る取り組みをするように援助した。中止になってしまう行事があったが、その中でできることを子どもたちと共に楽しめるようにしたことで、子どもたちも年長児で初めて経験することを存分に楽しむことができてよい経験となった。

家庭と連携を取りながら就学に向けての不安や期待を受け止めたり、子どもたちの生活リズムを整えてしていけるように援助したりしていけるようにした。

4人だったためクラスの中での集団遊びが難しかった。もっと4人でできることを工夫していくべきだったと反省している。

(クラス担任 角田 有乃)

(給食)

11月から食材納入業者が変わった事により食材の選択肢も増え、献立のバリエーションも増えた。子どもたちには、安全で食べやすく又美味しい給食を提供できた。

アレルギー対応では、ラーメンとうどん(卵のアレルギー)を食べる直前に気づき大事にはいかなかったが、改めて調理と保育とで話し合い、理解を深めることができた。

地域の方、保護者より旬の野菜、果物等を頂き感謝している。これからも安全・安心を第一にエネルギー(栄養素)の充足を図り美味しい給食を提供していくようにしたい。

(調理員 田口 眞希子)

【総務総括】

1) 職員状況

2年度職員(常勤職員11名)の年休取得状況は1人当たり平均取得日数15日(最少8日、最多20日)平均取得率は53.7%であった。子の看護休暇についても対象職員は取得して子どもの看護に充てている。

時間外勤務については1か月平均10.5時間、年間職員1人当たりの平均時間は12.6時間であった。時間外勤務の主な理由は行事関連、急な年休取得による保育の補完によるものが多かった。前年度と比較すると、新型コロナウイルス感染症対策のため行事の中止や変更、また振替休日として処理したことにより、一人当たり約13時間程度減少している。

職員1名が7月に出産、育児休業を取得中である。11月に育児休業から復帰した職員は、子どもの1歳の誕生日(1月)まで短時間勤務となった。

2) 施設設備保守管理状況

- ・業務用室内オゾン除菌脱臭器エアフィーノ4台(保育所等衛生用品整備事業費補助金対象)を購入。～新型コロナウイルス対策のため。

- ・ A E D 1 台購入～平成 2 3 年秋田市補助金により購入) 使用期限到来のため新規入れ替え。
- ・ 園庭遊具ぶらんこの塗装修理～定期保守点検で劣化判定のため。
- ・ 正門に外灯 1 基設置～特に冬期間暗く危険なため、保護者からの要望もあり。
- ・ エアコン 2 台設置～ 2 歳保育室→新規設置、調理室→故障のため。
- ・ ストーブ 1 台設置～事務室→新規設置。
- ・ 防風ネット修理～暴風、大雪（錆、劣化）による破損のため。

3) 運営状況

入所児童の充足率は年間平均 8 4 . 8 %で定員に達することはなかった。2 年度から給付費加算にチーム保育加算が認められた。補助金関係では、新型コロナウイルス対策関連補助金として計 1 0 0 万円が給付された。衛生用品（消毒用品、消耗品）や除菌脱臭器などの購入に充当した。又一時預かり事業費補助金が 1 0 0 万円増額となっている。

2 年度は人件費比率（総収入に占める人件費割合）は 7 6 . 5 %（元年度は 8 3 %）となっている。減少理由は職員 1 名の退職等によるもの、又入所児は減少したが新たにチーム保育加算が給付されたことによるもの。2 年度は積み立てを取崩すことなく終えることができた。